

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

| 達成度（評価） |             |
|---------|-------------|
| A       | 十分達成できている   |
| B       | おおむね達成できている |
| C       | やや不十分である    |
| D       | 不十分である      |

|                  |   |
|------------------|---|
| 学校名              | 佐賀市立赤松小学校   |
| 1 前年度<br>評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標とスローガンを、教師がたえず意識してそれぞれの教育活動にあたる事ができた。その成果が最終評価の結果にも表れていた。</li> <li>・学力向上については、全職員が同じ意識をもち取り組む事ができた。さらに、効果的な「学び方やペース・学習内容に選択肢のある授業」「自らやりたくなる探究的な学び」に向けて、教職員が研鑽を積む必要がある。</li> <li>・学校運営協議会の協力のもと、地域の企業からも資金面を含め多大なるご支援をいただいた。今後は、学校運営協議会委員の方、保護者、児童の意見をもとに、さらにコミュニティ・スクールを発展させていきたい。</li> </ul> |
| 2 学校教育目標         | <p>ふるさと赤松を大切に、志をもって行動できる子どもの育成</p> <p>【めざす子どもの姿】 あいてのはなしをよくきく子 かんがえ こうどうする子 またぐにあいさつする子 つながる子やさしい心で</p>   |
| 3 本年度の重点目標       | <p>&lt;今年のスローガン&gt; ~みんなも幸せ 自分も幸せになる学校~</p> <p>【自律-自分で考え、自分で決める-】◆すべての児童が学びに向かう授業 ◆深い学びの実現 ◆学び方やペース・学習内容に選択肢のある授業</p> <p>【尊重-一人一人の考えや違いを大切に-】◆合意形成を基にした、みんなが幸せな学級・学校づくりの実践</p> <p>【創造-多様な他者との協働による新しい価値の創造-】◆地域と共に追求する探究的な学びへのチャレンジ（地域の創り手としての児童の育成）</p>  |

|               |        |
|---------------|--------|
| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 |
|---------------|--------|

| (1)共通評価項目          |  |  |  | 最終評価        |      | 学校関係者評価 |    |       |
|--------------------|--|--|--|-------------|------|---------|----|-------|
| 評価項目               | 重点取組   |  | 具体的取組  | 達成度<br>(評価) | 実施結果 |         | 評価 | 意見や提言 |
|                    | 取組内容   | 成果指標<br>(数値目標)   |  |             | 評価   | 意見や提言   |    |       |
| ●学力の向上             | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎【自ら学ぶ-自分で考え、自分で決める-】授業の実践</li> <li>◎【試行錯誤を繰り返し、粘り強く学びに向かう児童の育成】を目指す。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学び方やペース・学習内容に選択肢のある授業を行っている」と回答した教職員85%以上</li> <li>○赤松小ICT利活用技能系統表に基づいて、該当学年でICTを活用した授業改善を行ったと回答する教職員90%以上</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単線型(教師による一斉授業のみ)の授業だけでなく、学習形態、学習進度、学習内容など多様な選択肢を準備して、児童が自己決定しながら学び進めることができるような手立てを講じる。</li> <li>・生活科・総合的な学習の時間を軸に、探究的な学びのプロセスを意識した実践を行う。また、探究的な学びのプロセスを他教科にも広げる。また、地域の方にラーニングパートナーとして授業に参加してもらい、授業の充実を図る。</li> <li>・ICT利活用技能系統表の指導項目を達成できるように、情報活用部でスキルタイムの活動を計画し、各学級で取り組む。</li> </ul>   |             |      |         |    |       |
| ●心の教育              | <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</li> <li>●児童生徒が志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎学期末のアンケートにおいて「自分が幸せか」「みんなが幸せなクラスだと思うか」「みんなが幸せなクラスのために何か行動しているか」について肯定的な回答80%以上</li> <li>○フリー参観(6月または11月)で、保護者参加型の道徳を行う。</li> <li>○毎月1回心のアンケートをとり、児童の心の変化や悩みを早期発見、早期対応できるようにする。</li> <li>○「困ったときは、友だち、大人等、まわりの人に相談していますか」と回答した児童80%以上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまりに児童の意見が反映されるような機会を設定する。</li> <li>・各学級において、学級のきまりに児童の意見が反映されるような機会を設定する。</li> <li>・道徳の授業を要として、様々な場面において、機会をとらえて考え、交流させることで自分の考えを深めさせるようにする。</li> <li>・子ども支援全体会や連絡会等で児童の情報を全職員で共有し、対応していく。</li> <li>・各学級との情報交換を密に行い、生徒指導の体制について分析、修正を行う。</li> <li>・教職員と児童とが個別に話をするひだまりタイムを年2回設け、児童の声を拾いやすい体制づくりを行う。</li> <li>・総合的な学習の時間を通して、地域の人々や環境、偉人についての学習を行うことで、自身のキャリアとつなげて考えることができるような課題を設定する。</li> </ul> |             |      |         |    |       |
| ●健康・体づくり           | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</li> <li>○「運動習慣の改善や定着化」</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「健康に良い食事をしている」児童95%以上</li> <li>○スポーツチャレンジの取組 各学級1種目以上、5回以上</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する知識を身に付けさせるために、給食時間に毎日電子黒板を活用して指導を実施する。また、毎月1回一斉指導を実施する。</li> <li>・授業参観等を活用して、食に関する授業を実施する。</li> <li>・普段運動をしない児童も積極的に運動をしている児童も、運動に対する意欲を高め、仲間と共に運動に親しむ契機としてスポーツチャレンジを実施する。</li> </ul>   |             |      |         |    |       |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</li> <li>●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務の長い教職員に声をかけ、タイムマネジメント力を育む。</li> <li>・学年主任会等をおとして、行事や業務の目的を浸透させ、スムーズな学校運営に資する。連絡掲示板を多く活用する。</li> <li>・「報告・連絡・相談」を徹底し、保護者対応の時間を減らす。</li> </ul>   |             |      |         |    |       |
| ●特別支援教育の充実         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し、UD化を実践する。</li> <li>○教室に入れない児童対応の体系化</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っている回答できる職員が90%以上</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。</li> <li>・研修会、書籍などで研鑽を積み、日々の関わりに生かす。</li> <li>・個別的教育支援計画・個別の指導計画を有効に活用する。日常的に、個別の支援が必要な児童に関する情報を交換する。</li> <li>・「赤松トレジャー」をもとに、全職員が一貫した指導を行う。また、適宜合意形成を図りながら見直す。</li> </ul>   |             |      |         |    |       |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |  |  |  | 最終評価        |      | 学校関係者評価 |    |       |
|----------------------|--|--|--|-------------|------|---------|----|-------|
| 評価項目                 | 重点取組   |  | 具体的取組  | 達成度<br>(評価) | 実施結果 |         | 評価 | 意見や提言 |
|                      | 取組内容   | 成果指標<br>(数値目標)   |  |             | 評価   | 意見や提言   |    |       |
| ○コミュニティスクールの発展       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地元企業へのコミュニティ・スクール制度の理解促進を図り、学校、保護者、地元企業等、地域をあげて児童を支える風土の強化</li> <li>◎「新わくわくカード」で児童の地域及び赤松コミュニティ関連行事への参加を促進する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者の地域活動への参加意識を昨年度よりも3%高める</li> <li>◎刷新した「わくわくカード」で、4こ以上スタンプを集めることができる児童80%以上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ活動の情報をHP・掲示・配布物等で発信するとともに、児童にも行事ごとに参加を働きかけ、多くの方の理解や協力を得る。</li> <li>・公民館やまちづくり協議会にも新スタンプを預け、地域行事に参加した際にスタンプをもらえるようにする。</li> </ul> |             |      |         |    |       |

|                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> |
|----------------|----------------------------------|